

みどりの風

第3号

発行日 2007年 5月20日

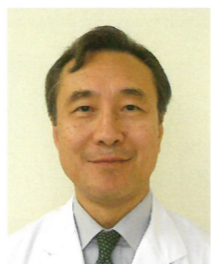


医療法人社団 倫生会

みどり病院

編集発行：みどり病院 広報誌作成委員会
所在地：〒651-2133 神戸市西区枝吉1-16
TEL (078) 928-1700・FAX (078) 928-1772

地域連携室ができました



地域連携室長(副院長)
廣田 一仁

みどり病院は、今回の全面新装改革を期に、新たな事業計画のなかで地域の医療機関の方々と連携を最重要目標に、「地域連携室」を設置いたしました。地域に向けて大きく開かれた病院として、病診・病病連携を内容豊かな実りあるものにするため、「地域連携室」の役割が非常に重要



内科医
清水 政克

「地域連携室」の業務は、
1. 紹介患者様の受け入れ
2. 退院支援
3. 病床管理
を行い効率的な地域連携を推進することです。

1. 紹介患者様の受け入れ
地域に根ざした医療を行うた

であることは言うまでもありません。
昨今、医療機関はその規模の大小にかかわらず、激動の大波に揺さぶられています。この時代にあって、ブレのない医療を提供できるのは、患者様を中心とした医療機関の相互連携の力であると確信しています。ひとつひとつの医療機関が、それぞれの役割を柔軟に繋ぎ合わせて患者様に過不足のない適切な医療を提供できるよう、わたしたちみどり病院も全職員挙げて積極的に取り組んで参ります。

めには近隣の医療機関診療所及び基幹病院等・介護・保健機関との緊密な連携が不可欠です。そのための前方連携として、紹介患者様の一元管理と地域医療機関への広報活動を行い、連携体制の整備を行っております。また、クリニックパスを積極的に導入することによって糖尿病教育入院などの効率化を図り、当院への迅速な転院・入院を可能としています。さらにオープンベッドシステム(開放型病床)の導入も視野に入れており、現在でも「かかりつけ医」である診療所の先生方に患者様の担当

2. 退院支援
病院は、患者様・御家族が退院後も自立した自分らしい「生活の継続」を支援するとともに、患者様が入院したならば責任をもって退院支援を行い地域の社会資源につなげるという責務を負っています。後方支援の要である退院支援については、主治医と地域連携室との連絡、後方施設(医療・介護・保健機関)との連携を強化し、介護保険導入などによる退院後の生活の調整、適切な診療所への逆紹介、より良い条件での転院調整などを行っています。また現在、厚生労働省は医療費抑制政策の一環として入院医療から在宅医療へのシフトを促しており、在宅ケアへのスムーズな移行が社会的・経済的に求められています。今後、糖尿病や心疾患、慢性閉塞性肺疾患などの生活習慣病に対する在宅療養指導ばかりでなく、悪性腫瘍患者の終末期までも含めた在宅での医療・介護に関する問題を取り扱うためにも、退院支援を益々拡充させなければならぬと考えております。

3. 病床管理
当院は積極的な救急患者様の受け入れを行っており急性期病床として区分されているため、在院日数の短縮化が至上命題とな

地域連携室スタッフ



事務 小谷 仁美
事務次長 津田 明彦
外来師長 内田 志緒利

地域連携担当Ns

外来師長 内田 志緒利
お気軽にお問い合わせ下さい。
TEL 078-928-1700
FAX 078-928-1772

みどり病院の理念

● 私たちは、地域の人々が健やかに安心して暮らせる医療環境づくりに貢献します。

みどり病院の基本方針

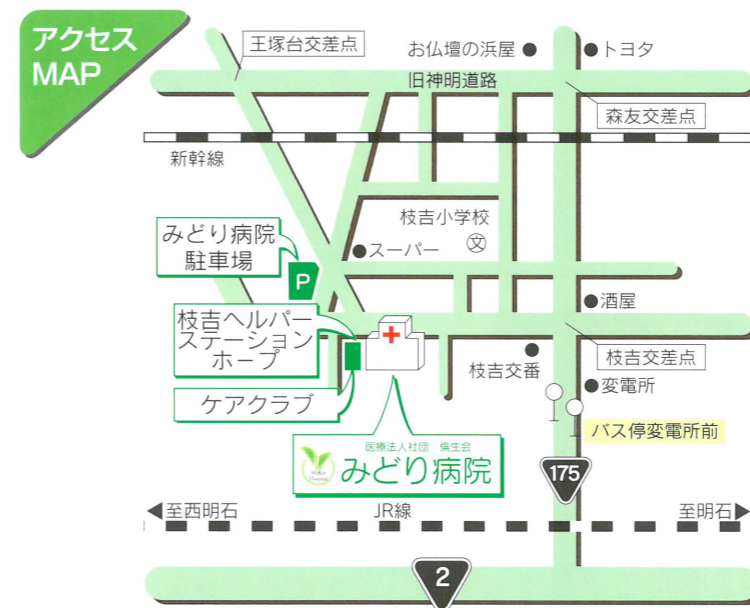
- 一般急性期医療を軸に、予防医学から在宅医療までをカバーし、地域の医療ニーズに応えます。
- 患者様の権利を尊重し、十分な説明を行い、安全で良質な医療を提供します。
- 近隣の医療・介護・保健機関と協力し、地域の人々の健康と安心を支える病院をめざします。
- 専門知識の習得や技術の向上に努め、医療レベルの向上に努めます。

診療担当表

		月	火	水	木	金	土					
午前 9:00~12:00 (受付 8:30~12:00)	内科	I 診	イナ 稲波	マエ 前川	カワ 川	サ 佐	エキ 伯	イナ 稲波	ヒロ 廣	タ 田	交代制 稲波 佐伯	
		II 診	サ 佐	エキ 伯	シ 清	ミス 水	ヒロ 廣	タ 田	シ 清	ミス 水	ムロ 室	ウ 生
		III 診	ヌカ 額	ダ 田	*		オオ 大	オカ 岡	*		イ 伊	サ 佐
夜間 17:00~19:30 (受付 16:30~19:30)		外科・整形外科	ヤ 矢	ベ 部	ヤ 矢	ベ 部	キ 木	ド 戸	ヤ 矢	ベ 部	ヤ 矢	ベ 部
17:00~19:00 (受付 16:30~19:00)	内科	I 診	マエ 前川	カワ 川	イナ 稲波	ナミ 波	サ 佐	エキ 伯	ヒロ 廣	タ 田	シ 清	ミス 水
		II 診	サワ 澤	ダ 田	*		オオ 大	ニシ 西	エ 江	ハラ 原	*	
		外科	(休 診)						ヤ 矢	ベ 部	(休 診)	

☆急患は随時受付いたします。(神戸市第2次救急指定病院)

- 診療科目…内科/外科/整形外科/循環器科/消化器科/呼吸器科/リウマチ科/リハビリテーション科/人工透析
- 病 床 数…108床(一般108床うち亜急性8床)
- 面会時間…平日・土 ▶ 15:00~20:00 日・祝日 ▶ 11:00~20:00



ホームページもご覧下さい!!

みどり病院のいろんな情報を、
ホームページでも公開しています。
下記アドレスまでアクセスしてください!
<http://www.midori-hp.or.jp>



みどり病院に入院中の方へのお見舞いメッセージを、Eメールで送ることができます。詳しくは、みどり病院ホームページにアクセスして下さい。



医療法人社団 倫生会

みどり病院

所在地：〒651-2133 神戸市西区枝吉1-16
TEL (078) 928-1700 (代) FAX (078) 928-1772

特集 当院のNST

●はじめに

はじめまして、みどり病院 NSTチーム・消化器内科の前川です。NST (Nutrition support team) 栄養サポートチームはもとアメリカで始まった概念です。当時アメリカでも入院患者のうち栄養状態が悪い患者さんが30-55%と多くそれらの患者さんの合併症を持つ割合や死亡率は高く、しかも入院期間が長くなることがわかりました。特に極度の栄養不良の患者さんも約10%みられ、そのような患者さんは栄養状態の良い患者さんに比べて非常に合併症の率が高いことが明らかになりました。そこで患者さんの栄養評価の見直しを行い積極的に栄養療法を行ったところ、合併症・死亡率・入院期間さらに入院治療費まで削減できました。これらより、「栄養は全ての治療の基本であるだけでなく、患者さんのための治療である」との認識が高まりました。日本でも平成9年に最初の本格的なNSTが発足し、以後全国にその動きが広がっています。当院でも平成18年4月よりみどり病院NSTを発足させ、活動を行っています。

そこで今回は当院での取り組みと現状についてご紹介いたします。

●当院NSTの現状

当院のNSTは、消化器内科医である私が、平成17年9月に胃ろうなどの経管栄養の患者さんをケアするためのプロジェクトを立ち上げたことから始まりました。その後約半年の準備期間の後に平成18年4月より正式にみどり病院NSTとして病院に承認され活動を開始しました。医師2名、看護師6名(各病棟2名ずつ、外来1名、透析1名)、薬剤師3名、理学療法士1名、管理栄養士1名、事務1名の全科型NSTとして始まりました。当院では、入院患者さんの中で食べられない・褥創がある・体重減少がある・血清アルブミン値が3.0g/dl以下などの基準にあたる方について毎週水曜日の



NSTカンファレンス (*1)

NSTカンファレンスで検討を行います。(※1)毎週身体測定を行い必要な栄養所要量を計算し、身体測定から得られたパラメーターより現在行われている栄養療法の評価をしています。栄養管理だけでなく、患者さんのケアに関するあらゆることについて、異なる部署のメンバーがそれぞれの視点から意見を出して話し合い、ケアに反映させるようにしています。それ以外にカンファレンスでは定期的に持ち回りでミニレクチャーや院外学習会のレポートなどを行い、知識の向上に努めています。

平成18年6月からは在宅の患者さんについても対象を拡大しました。また、当院では施設から患者さんも数多く入院されているため、そのような患者さんが入院中栄養不良となり、NSTを通じて栄養ケアを行うことがあります。そこで退院後も継続して適切な栄養ケアが行えるように、栄養管理情報提供書(※2)をお送りしています。また転出先での患者さんの栄養評価および管理の見直しや胃ろうのケアなどの相談についても随時対応しています。



栄養管理情報提供書 (*2)

うのケアなどの相談についても随時対応しています。

当院は平成18年8月に新病棟がオープンしました。その際に、院外の施設や訪問看護センター！ケアマネージャーの方々との勉強会(褥創対策としての栄養ケア)も開催しました。本年1月にも第二回勉強会を開催し多数の方にご来場頂きました(※3)。当院NSTでは病院から施設へ、施設から在宅へと生活の場が移り変わっても一連の適切な栄養ケアができることをめざしています。今後も地域の施設・医療機関の方々と連携を進めて、地域栄養ケアネットワーク(いわゆる「サークルNST」)を構築するように努力していきたいと考えています。



「摂食嚥下障害患者さんに対する経腸栄養について」(*3)

大規模基幹病院にもNSTはありますが、入院期間のみの対応に追われ、退院後のケアのことまで手が回っていないのが現状のようです。NSTの活動の原点は「患者さんのことを第一に考える」とあります。私たちはそれに加えて「患者さんのケアにできるだけ継続して関わる」ことが地域の医療機関として必要なことと考えます。みどり病院は規模こそ小さいですが、大病院にはできない、地域の実情に応じたきめ細かい栄養ケアを提供できる医療機関でありたいと考えています。もし栄養ケア・褥創治療等の点でお困りのことがあれば、当院外来または左記に御相談していただければ幸いです。

●みどり病院

内科 前川 修司
食養・栄養科 田垣 幸江

TEL: 078-928-1700
FAX: 078-928-1718

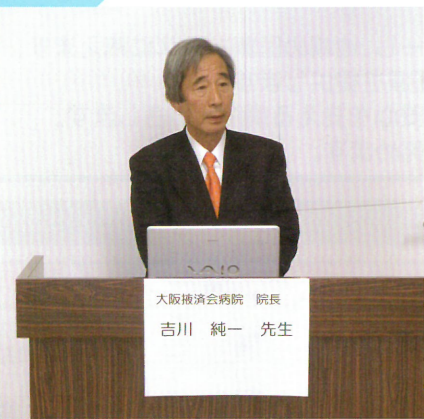
直接連絡するのは…という方はこちらへ
smaekawa@midori-hp.or.jp

循環器講演会を開催しました

3月24日土曜日午後4時から、みどり病院内4階会議室にて、大阪掖済会病院院長(前大阪市立大学循環器内科教授)の吉川純一先生と、神戸市立中央市民病院循環器内科部長の木原康樹先生をお迎えし、循環器講演会を開催しました。

当日は、近隣の開業医の先生、近隣病院の検査・放射線の技師の方々など30数名に、みどり病院職員約50名を加え、総勢80名ほどの参加となりました。

吉川先生は、「循環器疾患と画像診断の展望」のテーマで、冠動脈病変検出における各種画像診断の特徴について、特に、ドプラー負荷心エコーとColor Kinesis法の有用性についてお話いただきました。



木原先生は、「冠動脈疾患と64列MDCT」と題し、64列MDCTが提供する鮮明な画像により、冠動脈疾患の診断が新たな段階に入ったこと、高リスク患者の早期管理、予知と予防への展開の可能性などについてお話いただきました。



おすすめのお店



お水にもこだわっています。

今回は、みどり病院のすぐ裏にある、「くまのプーさん」という喫茶店をご紹介します。今年の7月で8年を迎えるこのお店は、朝はモーニング(トースト、ゆで卵、野菜、ポテトサラダ)、お昼はランチ目当てのお客が多いそうです。お店の人気メニューは、「日替り弁当」です。この日のメニューは唐揚げでした(写真)。付け合わせには野菜とポテトサラダ、ご飯、お味噌汁、煮物、酢の物、炒め物、いかなこのきき煮、香物、と、これだけ700円(数量限定)：プラス150円で珈琲、紅茶付)はとてもお得です。これらのおかずはいつも旬の食材を使用し、すべてママさんの手作り、だしも一から作っています。お水にもこだわっています。

くまのプーさん
☎078-927-4493

平日 7:00~17:00
日・祝日 7:00~15:00

ランチタイムサービス
11:00~14:00



すべて浄水器を通したお水を使用し、珈琲豆は、神戸珈琲でママさんがいるんな豆の珈琲を実際に飲んでブレンドしてもらったというこだわりの豆を使用しているとの事です。少し濃い目でこくがあり、酸味が少なく、飲みやすい珈琲です。通常の珈琲券3,500円(1枚綴り)に加えて、モーニング用珈琲券3,800円(1枚綴り)があるのも、モーニング好きの方には嬉しいですね。みなさんも是非、「くまのプーさん」の珈琲、日替り弁当を味わってみてください。(総務課I&薬剤部S)

クイズコーナー

読めるかな?

漢字検定1級の問題です。待ち遠しかった春がやってきました。今回は植物名の読み方です。

- ① 蒲公英
- ② 枸橘
- ③ 石南花

さて、あなたはいくつ読めましたか?

わかった方は、官製はがきにご記入とお名前、ご住所をご記入の上、「みどり病院 広報誌クイズコーナー」までお送りいただくか、院内のご意見箱にご投稿下さい。全問正解者の中から抽選で、記念品をお送りします。みどり病院や広報誌に対するご意見、ご感想等ございましたら、併せてご記入下さい。